

■ 当社の資本政策について

調整後EBITDA12.5億円への「工程表」

2026年6月22日開示「事業計画及び成長可能性に関する事項」の更新

2026年9月

ENECHANGE株式会社 東証グロース 証券コード | 4169



■ 本開示でお伝えする4点

～26年3月期決算説明会資料（5月15日発表）でお示した資本政策の方針に沿った6月以降の執行と、これからの配分について

1 10億円の自己株式取得を完了

- FY27までの調整後EBITDA12.5億円という目標に向けた資本配分の一環として実施
- 3,245,700株、999,970,800円を市場で取得

2 5つの選択肢を都度比較して配分

- 5月15日の決算説明会資料及び6月22日の「成長可能性資料」でも再掲した5つの選択肢のうち、M&A投資と自己株式取得に配分済み
- キャピタル・アロケーションとして、より高いリターンが見込める配分を優先。追加の株主還元については改めて検討する

3 取得した自己株式の使途は多角的に検討

- 消却、M&Aの対価、役員・従業員に対する株式報酬など、複数の選択肢を今後比較検討していく
- 判断基準は取得時と同様に当社で最も価値を発揮する使い方を選択

4 法人向け電力切替とAI点検へ資本配分

- FY27調整後EBITDA12.5億円に向け成長を牽引する2領域に注力
- キャッシュ創出力の強い家庭向け電力切替（オンライン）は「キャッシュカウ」として引き続き利益貢献に期待

一貫した資本配分の判断基準～追加1円投資あたり、最もリターンの高い選択を行う

③の使途はいずれも検討中のものであり、内容・時期を確約するものではありません。個別の事項については、決定次第、適時開示等により公表いたします。

■ 当社の「既存事業の深化」、「AI×現場」、「海外領域」の3レイヤーでの成長戦略

電力切替・CIS（新電力向け基幹システム）で確実な成長を遂げつつ、AIによる現場DXとグローバル展開で、事業規模を飛躍させる。

	FY25	～FY27	FY28以降
海外で、未来を学ぶ ENECHANGE 海外の先進知見の獲得	海外投資マネジメント 海外の先進知見蓄積	海外投資マネジメント ビジネスの顧客拡大	投資マネジメントビジネスの深耕 （小口資金活用、タイムマシン型・ 先進的ビジネスへの投資等）
AIで、明日を変える ENECHANGE 現場領域のAI活用（電力隣接領域）	種まき （対象企業・業種の選定、実証）	AI点検＋クロスセル立ち上げ	スケール・周辺領域の統合運営
切替で、今日を支える ENECHANGE 電力流通プラットフォームの拡大	電力切替（収益基盤） 基幹システム（CIS）基盤確立	CIS拡販・クロスセル本格化 その他ソリューション展開	CIS拡大 総合ソリューション化
調整後EBITDA（イメージ）	6.5億円	12.5億円	50～100億円

■ 主力稼働 ■ 立ち上げ・拡大 ■ 種まき・準備

■ 資本政策として、追加1円投資あたり最もリターンが高いオプションを網羅的に検討

現預金については、一株あたりの「本源的」価値を高める選択肢を網羅的に検討（5月15日決算説明会資料より）

1

既存事業への再投資

既存事業の強固なキャッシュ創出力を活かし、追加の外部調達に頼らず更なる成長機会へ再投資

2

規律あるM&A投資

買収価格と収益貢献等からなるROICを厳格に評価し、非連続かつ質の高い成長を実現する成長投資

3

有利子負債の返済

金利削減による利益改善効果は限定的と認識。資金の希少性を十分に考慮し、より高いROICが見込める投資機会への配分を優先する。

4

自己株買い

当社株価が割安と判断した場合、高いリターンの見込める自己株式の取得を検討

5

その他株主還元

これら選択肢を網羅的に検討の上、配当・優待等の機動的な株主還元を実施

FY26/6月以降、5つの選択肢に沿って、キャピタル・アロケーションを実施 ～ロールアップの1件目となるダーウィン子会社化・AI点検ソフトの取得および約10億円の自己株式取得を完了

選択肢	FY26 6月以降の実施状況
① 既存事業への再投資	FY26・Q1は法人向け電力切替が成長を牽引（一過性控除後の調整後EBITDAはYoY+38%）
② 規律あるM&A投資	ダーウィンの完全子会社化、Flight PILOTへ19.89%出資及びAI点検ソフトを取得 インフラ保安・点検領域のロールアップ1件目。以降も継続的に実行する予定
③ 有利子負債の返済	返済よりも適切なレバレッジを優先。上記M&Aを全額借入で実施
④ 自己株式取得	3,245,700株、999,970,800円の自己株式取得を実施 これにより、ROEはFY26予想の約11.5%から約14.5%となる試算
⑤ その他株主還元	引き続き、全ての選択肢を検討する

最適なキャピタル・アロケーションでROEの一段の向上を目指す（簡易試算）

FY25 実績
2.8%



FY26 予想
約 11.5%



自己株式取得完了後
約 14.5%

実行欄はいずれも既開示の内容（2027年3月期第1四半期決算説明資料、2026年6月22日「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」等）。ROEは簡易試算であり、FY25は実績、FY26以降は当期純利益550百万円を各シナリオの自己資本で除して算出

■ 約10億円の自己株式取得枠に対し、規律をもって買付けを完了

～取得価額の上限に達したため、2026年6月22日取締役会決議に基づく自己株式の取得を終了

取得の内容

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得した株式の総数	3,245,700株
株式の取得価額の総額	999,970,800円
取得期間	2026年8月10日～8月21日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

取得枠の消化状況

100.0%

取得価額 10億円の枠に対して

81.1%

取得株数 4,000,000株の枠に対して

取得した自己株式の用途については、次頁のとおり検討を進める

株式の取得価額の総額は約定金額であり、売買手数料等は含まれておりません。取得期間は約定日ベースで記載しています。取得した株式の総数3,245,700株は、2026年3月31日時点の発行済株式総数（自己株式を除く）42,867,212株の7.6%に相当します。なお、決議時の取得上限株数4,000,000株は、同発行済株式総数の9.3%に相当します。

■ 取得した自己株式の使途は、M&Aの対価を含めて多角的に検討

～取得は資本政策の完結ではなく、「使途の決定まで」が一体の判断



当社にとって最も価値のある使い方を選択

本頁の内容はいずれも検討中のものであり、内容・時期を確約するものではありません。個別の事項については、決定次第、適時開示等により公表いたします。

法人向け電力切替およびAI点検領域が成長を牽引

～家庭向け電力切替（オンライン）は、キャッシュカウとして次なる成長を支える

海外で、未来を学ぶ ENECHANGE

海外の先進知見の獲得

海外投資マネジメント

～顧客数と収益機会の最大化を狙う～
（小口資金活用、タイムマシン型・先進的ビジネスへの投資等）

AIで、明日を変える ENECHANGE

現場領域のAI活用（電力隣接領域）

AI点検

AI点検＋クロスセル立ち上げ
スケール・周辺領域の統合運営

切替で、今日を支える ENECHANGE

電力流通プラットフォームの拡大

法人拠点数を活かしたクロスセルの実現

法人向け電力切替

獲得したキャッシュを成長分野へ投下

家庭向け電力切替
（オンライン）

家庭向け電力切替
（オフライン）

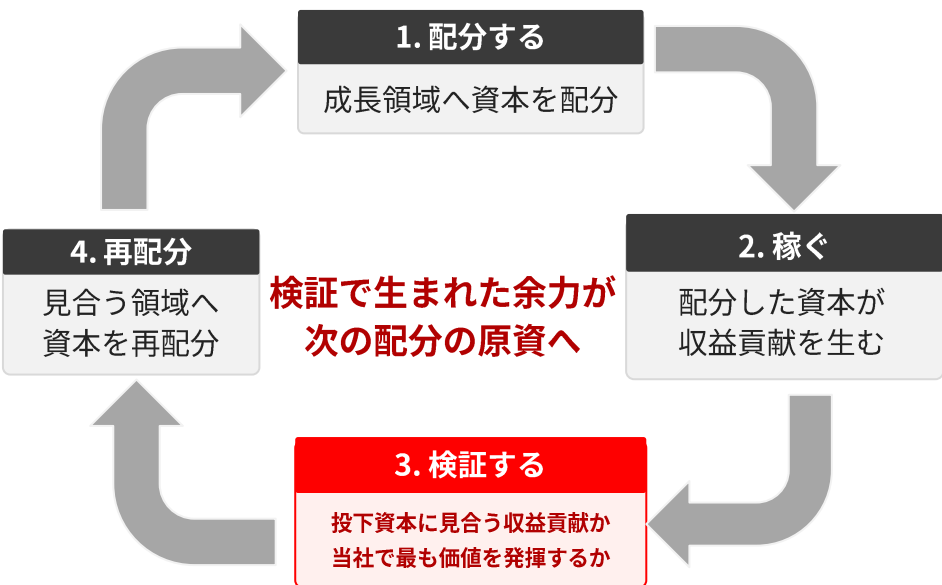
CIS
（新電力向け基幹システム）

収益性の改善を目指し戦略転換中

本頁は当社の事業ポートフォリオと資本の配置を示すイメージ図であり、
規模・時期・順序を示すものではありません。

■ 当社のキャピタル・アロケーション循環図

循環を支える3つの規律



① 常に最もリターンが高いアクションを優先

投下した資本に見合う収益貢献が得られるかを基準に、事業投資・M&A・自己株式取得・その他株主還元を同じ土俵で比較する。特定の手段をあらかじめ優先することはしない。

② まずは自らキャッシュを創出

既存事業のキャッシュ創出力と、配置の見直しで生まれる余力をまず原資とする。そのうえで、M&A等の非連続な成長投資については、リターンが調達コストを上回る場合に外部借入も充てる。

③ 既存事業も聖域ではなく見直しの対象

求める水準は事業の成熟度とリスクに応じて設定。単一の数値で機械的に判断することはない。

株主価値の最大化を目指し、キャピタル・アロケーションの最適解を追求し続けます。

※ 開示の充実に関する事項はいずれも検討中のものであり、内容・定義・時期を確約するものではありません。個別の事項については、決定次第、適時開示等により公表いたします。

エネチェンジ

エネルギーの未来をつくる

CHANGING ENERGY FOR A BETTER WORLD

ENECHANGE